

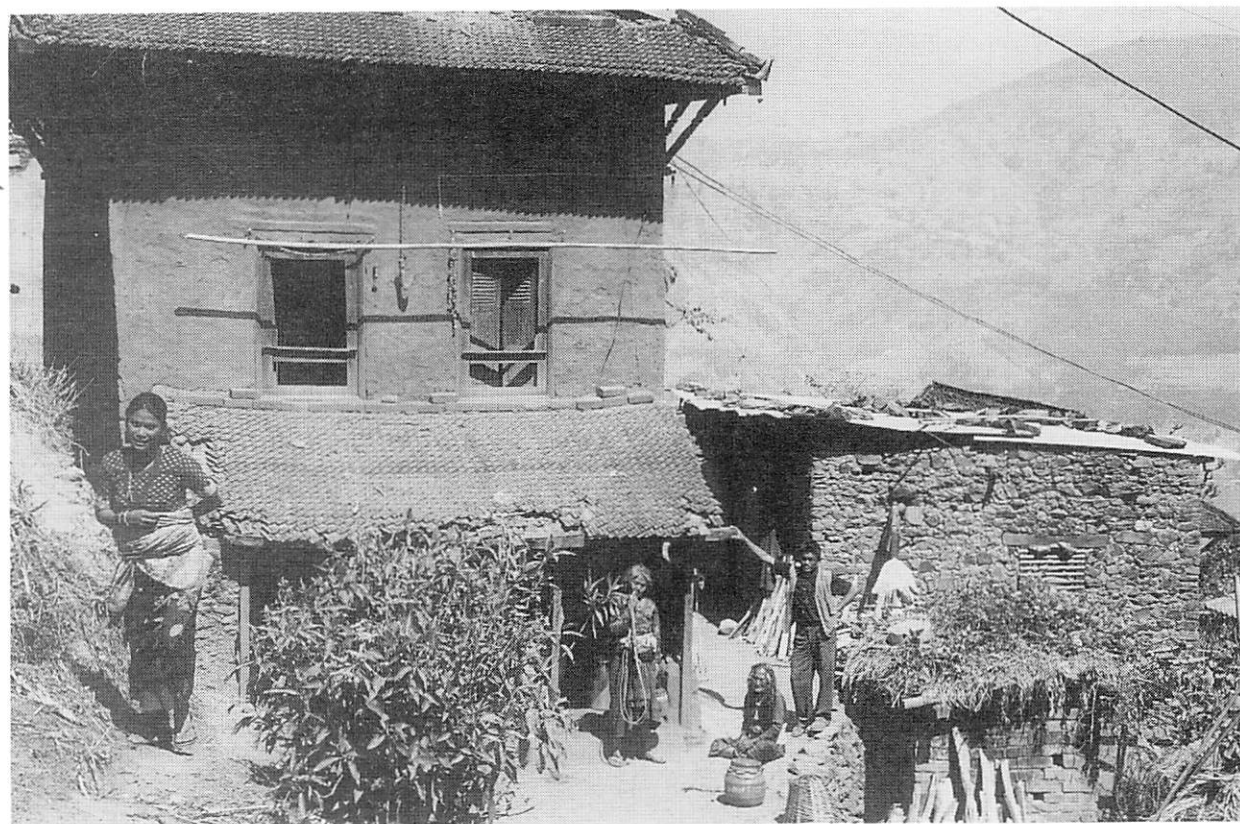
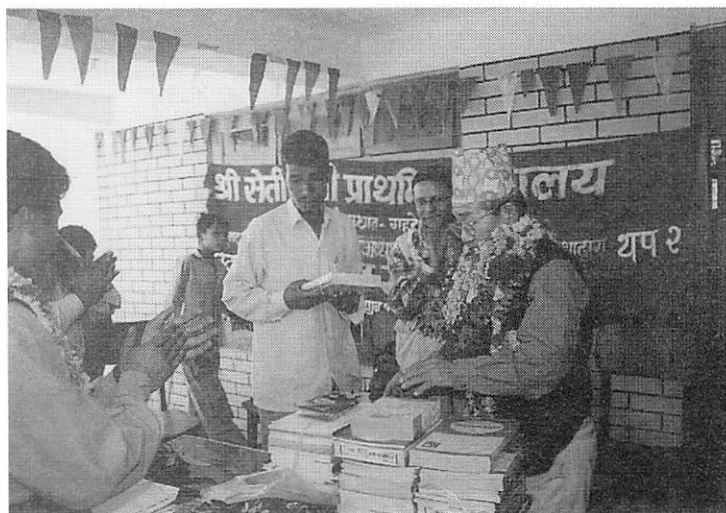


ガハテ村通信

篠山ナマステ会 兵庫県篠山市住山420 TEL (079) 595-1365 振替口座 00930-6-29629

新たな交流の課題を求めて ガハテ村を訪問

去る三月一日より代表三名がガハテ村を訪問し、市内小学生のお手紙や図画、学用品をセティディビ小学校児童へ直接届けて来ました。
今、ネパールでは治安が悪化して、気軽にツアーを組んで旅行出来るような状態ではありませんが、一日も早くネパールの政治が安定し、活発な交流活動が出来る日を祈っています。



交流の原点を求めて

篠山ナマステ会 会長 杉原 一三

昨年に続き短い時間ではあったが、上田、武部、杉原の三名でガハテ村セティディビ小学校を訪問してきた。

いつもの定宿ペンション・バスナではオーナーのシュレタ氏の歓迎を受け、旧交を温めていると、遠くネパールまで来たと言っより、隣町へちよつと出張で来ているような錯覚にとらわれる程、心から落ち着けるのはありがたい。

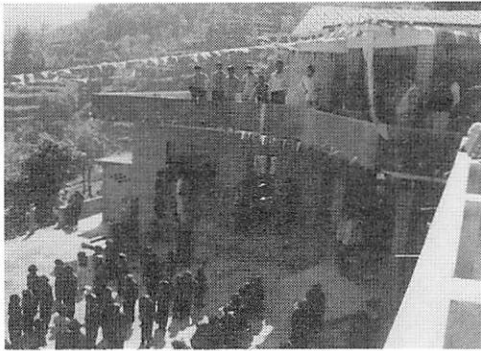
程なくビスタ氏やショウバナさんのお母さん、お兄さんの来訪を受け、ビスタ氏のご子息ビドル・ビスタ氏の病状についての話を承ると、かなり容態が悪く明日入院、手術をしなければならぬという、大変な時と重なって、本当に申し訳ない思いをする。

翌朝七時出発でガハテに向かう。ビスタ氏はご子息の入院でそれどころじゃない中を同行して頂いた。通訳のギリ氏と運転手を入れて一行五人の幹線道路沿いには、至る所に検問所が設けられ、小銃を

構えた兵士が荷物のチェックをしているが、外国人の車はノーチェック。郊外に出ると野辺は麦の穂が出て、菜の花盛り、日本の気候でいうと四月下旬の陽気。

途中のクンタ村「SSS」事務所まで小休止して途中乗車のSSS副委員長など、一行は十名に膨れ上がり、小さな四駆のおんぼろ車が、道路とは名ばかりのオフロードを、今にもエンコしそうな悲鳴を上げながらあえぎ登る。

十時過ぎにガハテ村に到着。

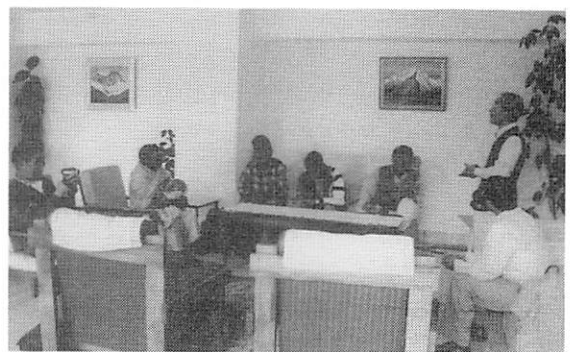


ここまで山を登ってくると、とても空気が澄んでいて、遙か彼方の山の端には、白銀に輝くヒマラヤ連峰が、神々しい姿を見せている。今は亡き渡辺省悟氏が、あの山の空から私たちの学校を見守っていてくれる事を実感として受け止め、胸にこみ上げる熱いものを感じた。

学校訪問では、いつもの通り子ども達が手作りの花の首飾りを持って出迎えてくれ、私たちに寄せるガハテ村の熱い思いが伝わって来る。二階増築のセレモニーはテープカットに始まり、型通りの挨拶の後、持参したノートや鉛筆を贈呈し、市内の小学生からの手紙を渡した。

最初の計画ではこの後、民家にホームステイして、ガハテ村の生活実態に触れ、今後の交流の在り方を探る予定で寝袋まで持参していたが、折悪しくビスタ氏のご子息の入院のために急いで帰らねばならず、やむを得ず駆け足でのガハテ村訪問となる。

急斜面の山肌に張り付いたように、段々畑の間に点在する民家を訪ねながら、約一時間半の村巡りであったが、牛



と山羊と鶏と、人間の生活が一体となって自然に溶け込んでおり、貧しさと平和が同居したような、昔ながらの暮らしが、学校が出来たことによりどう変わって行くのか、変わらざるを得ないのか、篠山ナマステ会として、それにどうかかわっていくのか、大きな課題であると感じた。

三月四日、バスナでの学校運営についての協議は、これも折悪しく、カトマンドゥ市内を中心としたストライキの為に、ガハテ村からの交通手段がなく、前日から泊まりがけで出て来られた運営委員長

タマン氏、教師のバンダリ氏、女性教師のラマさん、それにビスタ氏を含めて四名と我々三名に通訳のギリ氏を入れて八名であった。

ビスタ氏もご子息の入院、手術の翌日で、心身ともに疲労が重なって元気がなく、SSSと学校の関係や、学校運営についての積極的な発言が得られず、学校運営委員会として本年秋頃には、地方教育委員会任命の先生が一人派遣されるだろうとの期待が表明されたが、それとても政情不安のためにその時になつてみないと分からないという。

篠山ナマステ会としては当初の契約通り、本年を含めて後二年間の運営支援は約束するが、それ以後は自分たちでどのように学校を維持していくか、自立出来る方策をみんな考えてほしい。そのために篠山ナマステ会としてガハテ村の皆さんとの交流を通じて、お手伝い出来ることを考えていと伝えておいた。

ネパールの治安が一刻も早く安定し、みんなと一緒にツアーを組んで、ガハテ村の人達と直接の交流が出来る日を待ち望んでいる。

ガハテ村レポート

しあわせの原点を見つめて

ペン 上田 和夫
カメラ 武部 宣男

神が住むヒマラヤ連峰に見守られながら
天と地の境をどこまでも
どこまでも耕して
急斜面の山肌に張り付くように
点在するガハテの村落
段々畑の麦の穂に
子山羊の背中に
たおやかな春の日ざしが降り注ぐ



牛と山羊と鶏と
子どもと犬と老人と
渾然一体となって
何百年という時間が停止したまま
人間のいとなみすらも
自然の一部となって
調和し共生する

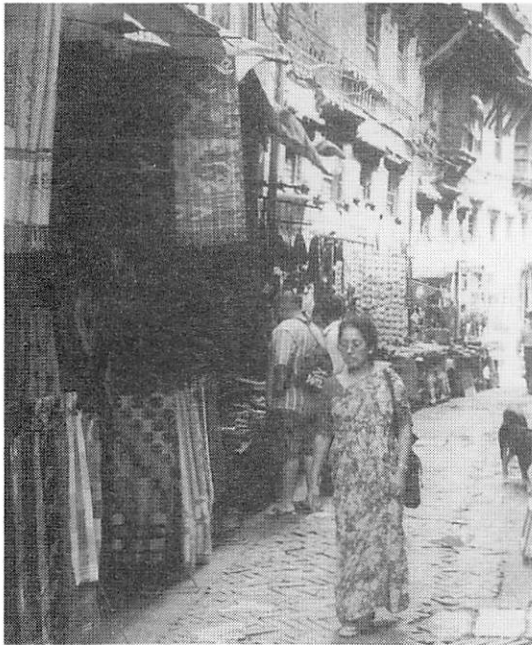
これほどまでに満ち足りた生活を
貧しいと見るのは
近代文明に毒された人間の
余計なおせっかいと言うべきか
私たちが探し求め続けた
しあわせの原点がここにあった
学校と言っても黒板だけの教室に
子どもたちの元気な掛け声が弾け
澄んだ瞳が
しっかりと明日を見つめる



しかし もう少しだけ
時計の針を動かして
健康で衛生的な暮らしを
自分の手足で頭で探してほしい
そのために
私たちに何が出来るか
何をしなければならぬか
何をしてはいけないか
篠山ナマステ会の課題は尽きない

苦悩するネパール 混迷のカトマンドゥの街角で

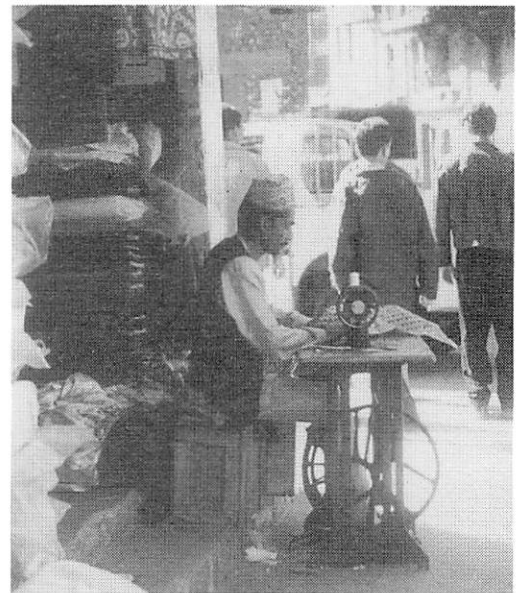
築後何百年の風雨にさらされて
今にも崩れ落ちそうで崩れず
絶妙のバランスを保った煉瓦造りが
折り重なるように連なる
歴史の都カトマンドゥは
気管支炎と 喘息と
大腸カタルの複合疾患に
なすすべもなく耐えている



舞い上がる砂ほこりと排気ガスと
無秩序に渋滞する車の波
屋根の上にまで客を乗せたバスの間を
すり抜け駆け抜ける若者のバイク
静と動が織りなすカトマンドゥの街は
大きな断層が動き出す前兆にも似て
何かが 何かが変わろうとしている



擦り減った煉瓦の敷石道
迷路のような路地裏を歩けば
店先の歩道でミシンを踏み
山羊を解体してその肉を売る
間口一間 奥行き二間
棟割り長屋のような店舗に
山積みされた日用雑貨
売れても売れなくても
辛抱強く客を待つ
主とその家族



国道の各所に設けられた検問所で
小銃を構えた少年兵の
あまりにも不似合いな童顔を
正視出来ずに瞳をそらす
マオイストゲリラは
社会の歪みに咲いたあだ花なのか
混迷の時代を切り開く
パイオニアなのか
その答えが見つかるまで
ネパール民衆の苦悩は続く

市内小学生のお手紙を ネパールの児童に届けて来ました

ネパールの小学生から寄せられたお手紙の返事を、篠山市内の城北小学校四年生、日置小学校三年生、古市小学校二年生、大山小学校四年生の皆さんが書いてくれました。

ネパールの、まだ見ぬ友達への思いが一杯詰まったお手紙は、去る三月二日、代表がセティディビ小学校を訪問し、直接渡して来ました。

いづれネパールの言葉に翻訳して宛名の友達に一人ひと

り届けられる事でしよう。

皆さんが心を込めて書いてくれた学校の様子や、冬の雪遊びの楽しさが、ネパールの友達にどのように伝わるか、楽しみにしながら、また次のお手紙を待ちましょう。

セティディビ小学校は、日本と同じように四月から新しい年度が始まりますが、全部の児童が年度末試験を受けて、合格していれば上の学年に進級し、不合格ならもう一年同



じ学年に残らねばなりませんし、それぞれの教科で最高点をとった児童は、賞を手に入れます。ですから、児童にとっても、保護者にとっても、大変な一日になるのです。

合格した児童で五年生は、この学校を卒業して、勉強を続けるために別の学校へ進学します。ですから、これらの児童はこの学校を去って行くことに、さみしい思いをすることになります。セティディビ小学校にとっては、最初の卒業生を送り出すという、記念すべき年を迎えました。

篠山の多くの皆さんの善意が、こうして着実にネパールに根付いているのは本当にうれしい事です。

第26回丹波焼陶器まつり実行委員会より

チャリティ・オークションの収益金 575,300円を、ネパールとの交流資金としてご寄附頂きました。(2003年11月21日)

チャリティー金を寄付 陶器まつり実行委員会 篠山ナマステ会へ



「第一十六回丹波焼陶器まつり」が、十月に開かれ「陶器まつり実行委員会」の「同まつりのチャリティー（清水美和雄委員長）が、収益金を篠山ナマステ会」に寄付した。口、篠山市の中野（杉原）に寄付した。

「第二十六回丹波焼陶器まつり実行委員会」から、十月に開かれた同まつりのチャリティオークション収益金を、ネパール・セティディビ小学校との交流支援金として、寄附をお受けしました。私たちの地道な活動を評価して頂いた結果として、大変ありがたうお受けし、これからも益々交流を深めて行きます。

同まつりでは毎回、地元や出展者が協力して商売を促進し、チャリティオークションを実施。収益金を福祉のためにさまざまな団体に寄付している。今回は、ネパールとの交流を行う同会に寄付することにし、清水実行委員長が杉原代表に手渡しした。写真。

杉原代表は「われわれの活動を評価していただき、大変ありがたい。これを機会に発祥し、ますます交流を深めたい」と感謝していた。

15.11.27日 丹波新聞の記事

篠山産業高等学校生徒会より 文化祭の収益金

十二万三千五百円

セティディビ小学校支援金として寄贈を受けました。ありがとうございました。

この一年を振り返って

総会に提案された活動のあらまし

平成15年度会計の収支報告

◇ 一般会計

収入

会費	425,000	5,000×85人
繰越金	163,588	
協賛金	0	
雑収入	7,012	人権フェスタ補助金・利息
合計	595,600	

支出

印刷費	123,375	「ガハテ村通信」
事務費	35,746	インク・封筒・用紙
通信費	92,740	切手・はがき・電話代
活動費	218,123	通訳料・イベント企画・他
予備費	0	
合計	469,984	

次年度繰越金 125,616円

◇ 募金会計

収入

個人募金	213,513	33人
団体募金	703,800	3団体
募金箱	118,814	募金箱・バザー収益金
繰越金	1,690,674	平成14年度より
雑収入	86	利息
合計	2,726,887	

支出

送金	1,111,000	学校運営費・増築費
招聘費	0	
派遣費	0	
予備費	14,310	送金手数料
合計	1,125,310	

次年度繰越金 1,601,577円

◇ 渡辺拓道様よりの寄金

特別寄金 1,000,000円



ネパール写真展とおはなし会 (篠山市立中央図書館)

平成15年度の主な事業

- 5月11日 平成15年度総会
- 14日 セ小運営資金等送金 1,075,000円
- 8月1日 「ガハテ村通信No.5」発行
- 1日 「子どもの人権展」(市民センター)
- ～3日 に出展・写真・ネパールグッズ展示
- 30日 「愛の縁日」出展
- サモサ・ネパール茶・グッズ販売
- 31日 PHD研修生との交流会
(四季の森長者屋敷)
- 11月16日 「国際理解フォーラムinささやま」に参加・チャイの喫茶コーナー設営
- 22日 ネパール写真展&おはなし会
- ～30日 (篠山市立中央図書館)
写真・楽器等展示、ビデオ上映、ネパール民話、サリー着付け体験等
- 12月5日 「人権フェスタin篠山」に参加
- ～7日 ネパール写真展・グッズバザー
- 2月29日 セ小及びガハテ村等現地訪問視察
小学生の手紙・ノート・鉛筆等持参
運営委員会との連絡会議

大変気になるネパールの政情不安 交流に影響を落とす治安の悪化

ネパールでは今、貧富の差による社会の歪みと、それを革命によって解決しようとする「マオイスト」と称する武装ゲリラの活動が活発になり、各地で政府軍との間に戦闘が行われて、多数の死者が出るなど非常に治安が悪化しています。

外国人が直接標的にされるような事はありませんが、ゲリラ活動は時と場所を選びませんから、いつ事件に巻き込まれるかも知れないのです。近ごろでは知識人やジャーナリストも参加した民主化闘争や、交通機関のストライキなどにより、民衆の生活が益々混乱し、気軽に観光旅行が出来るような状態ではなくなっています。

一刻も早く政治が安定し、ネパールの人々に幸せな毎日が訪れるよう期待し、祈って止みません。